

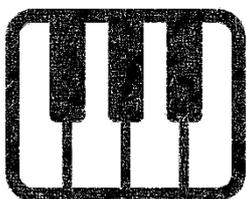
また君に恋してる

朝露が招く 光を浴びて はいじめてのように ふれる頼
てのひらに伝う 君の寝息に 過ぎてきた時が 報われる
いつか風が 散らした花も 季節巡り 色をつけるよ
また君に恋してる いままでよりも深く
まだ君を好きになれる 心から

若かっただけで 許された罪 残った傷にも 陽が滲む
幸せの意味に 戸惑うときも ふたりは気持ちをつないでた
いつか雨に 失くした空も 涙ふけば 虹も架かるよ
また君に恋してる いままでよりも深く
まだ君を好きになれる 心から
また君に恋してる いままでよりも深く
まだ君を好きになれる 心から



楽団 コトコト



【ヴィラひまわり廿日市駅前】

でんお: 0829-20-5108

せいくらべ

柱のきずは おとしの
五月五日の 背くらべ
ちまきたべたべ 兄さんが
討ってくれた 背のたけ
きのうくらべりゃ なんのこ
やっ羽織の 紐のたけ

柱にもたれりゃ すぐ見える
遠いお山も 背くらべ
雲の上まで 顔だして
てんでに背伸び していても
雪の帽子を ぬいでさえ
一はやっぱり 富士の山

ふるさと

兔追いし かの山
小鮒釣りし かの川
夢は今も めぐりて
忘れがたき 故郷

いかにいます 父母
つつがなしや 友がき
雨に風に つけても
思いいずる 故郷

こころざしを はたして
いつの日にか 帰らん
山は青き 故郷
水は清き 故郷

おぼろ月夜

菜の花ばたけに 入り日薄れ
見わたす山の端 霞ふかし
春風そよぶく 空を見れば
夕月かかりて におい淡し

里わのほかげも 森の色も
田中の小路を たどる人も
かわずのなくねも かねの音も
さながら霞める おぼろ月夜

リンゴの唄

赤いリンゴに口びるよせて
だまってみている青い空
リンゴはなんにも云おないけれど
リンゴの気持ちにはよくわかる
リンゴ可愛や可愛やリンゴ

あの娘よい子だ 気立のよい子
リンゴによく似た可愛い娘
どなたがいったかうれしい噂
軽いクシャミもとんで出る
リンゴ可愛や可愛やリンゴ

茶摘み

夏も近づくと八十八夜
野にも山にも若葉が茂る
あれに見えるは
茶摘じゃないか
あかねだすきにすげの笠

日和つづきの今日此の頃を
心のどかに摘みつつ歌う
摘めよ 摘め摘め
摘まねばならぬ
摘まにゃ日本の茶にならぬ

上を向いて歩こう

上を向いて歩こう
涙がこぼれないように
思い出す 春の日
一人ぼっちの夜

上を向いて歩こう
にじんだ星をかぞえて
思い出す 夏の日
一人ぼっちの夜

幸せは 雲の上に
幸せは 空の上に
上を向いて歩こう
涙がこぼれないように
泣きながら 歩く
一人ぼっちの夜

思い出す 秋の日
一人ぼっちの夜...

